



創立 10 周年を迎えて

福岡県鉄構工業会相談役

金子 和英

福岡県建築鉄骨協議会が創立から 10 周年を迎えられましたこと、大変喜ばしく思っております。

最初に、創立にあたり、河野昭彦・九州大学教授、中野盛行・福岡県鉄構工業会専務理事、浜田敬二・J S C A九州支部顧問のご尽力には大変頭が下がる思いであり、何を置いても感謝であります。

さて、私が地元の福岡県鉄構工業会に身を置いて、約 40 年近く経ちます。その間、南部支部の青年部会（現在は福岡県青年部会に集約）・J S C の部会長、その後、青連協（現・全青会）九州ブロック会の会長、そして福岡県鉄構工業会の理事長を務めさせて頂くなど、本当に貴重な体験、経験となりました。

こうした経験を通じて感じたことは、ファブという同業者間のつながりだけでなく、行政、設計、ゼネコン、学術など鉄構に携わる方々と常に接触、連携をしていかなければ、鉄構業界の地位向上はありえないことを痛感したことでした。

そうした思いの中で、今から 10 年前に、産・官・学の方々が一堂に介せる建築鉄骨協議会が設立されたことに、あらためて感謝申し上げる次第であります。

設立されてから、私は福岡県鉄構工業会の理事長として約 7 年間、そして今はその相談役として現会員として携わらせて頂いております。当工業会として工場見学会の提供や鉄骨ディテール集や資格関連、柱梁接合部へのアンケート協力などをさせて頂き、またわれわれファブリケーターにとって大変重要となる建築基準法の改正や溶接ロボットや鉄鋼製品・価格動向の最新情報など例会を通して知ることができ、本当にありがたく思っています。

今後も行政、学術、設計業界の方かだとの関係を強化し、これまで得た知識を実践に結びつけられるようにするとともに、個人的には若い方々への支援をしていきたいと考えております。年を幾らとつても、学ぶ姿勢を忘れず、福岡県鉄構工業会のため、福岡県建築鉄骨協議会のために力を尽くして参りたいと思っております。